

令和4年度行政事業レビューシート (文部科学省)

事業名	大学教育のデジタルイノベーション・イニシアティブの実施			担当部局庁	高等教育局		作成責任者		
事業開始年度	令和3年度	事業終了(予定)年度	終了予定なし	担当課室	専門教育課		専門教育課長 塩田 剛志		
会計区分	一般会計								
根拠法令 (具体的な条項も記載)	-			関係する計画、通知等	「統合イノベーション戦略2020」(令和2年7月17日閣議決定) 「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン(答申)」(平成30年11月26日中央教育審議会)				
主要政策・施策	科学技術・イノベーション、子ども・若者育成支援			主要経費	文教及び科学振興				
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	圧倒的に高い学修成果を生み出すなど大学の授業の価値を最大化するため、産学が協働してデジタル技術を高度に活用する取組を奨励する大学教育のデジタルイノベーション・イニシアティブの円滑な運営を行うことを目的とする。								
事業概要 (5行程度以内。別添可)	圧倒的に高い学修成果を生み出すなど大学の授業の価値を最大化するという事業目的のもと、大学の授業をデジタルイノベーションするアイデアを持つ大学教員や企業等が、そのアイデアを公開の「ピッチイベント」で披露し、そのアイデアに賛同した者たちがマッチングし、実際の授業でフィージビリティ・スタディを行う。これらの取組についてはその効果を検証、情報発信し、我が国として知見を蓄積していく。この事業推進のため、広報等プロモーション戦略、ピッチイベント運営、フォローアップ等を管理する事務局を設置する。								
実施方法	委託・請負								
予算額・執行額 (単位:百万円)	予算の状況	当初予算	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度要求		
		補正予算	-	-	-	-	-		
		前年度から繰越し	-	-	-	-	-		
		翌年度へ繰越し	-	-	-	-	-		
		予備費等	-	-	-	-	-		
		計	0	0	31	31	31		
	執行額	0		25					
	執行率(%)	-	-	81%					
	当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%)	-	-	81%					
	令和4・5年度予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算目	令和4年度当初予算	令和5年度要求	主な増減理由				
大学改革推進委託費		27	27	※金額は、単位未満を四捨五入して記入していることから、合計が一致しない場合がある。					
委員等旅費		2	2						
諸謝金		1	1						
庁費		0.4	0.4						
職員旅費		2	2						
計		31	31						
活動内容 (アクティビティ)	圧倒的に高い学修成果を生み出すなど大学の授業の価値を最大化するという事業目的のもと、大学の授業をデジタルイノベーションするアイデアを持つ大学教員や企業等が、そのアイデアを公開の「ピッチイベント」で披露し、そのアイデアに賛同した者たちがマッチングし、実際の授業でフィージビリティ・スタディを行う。これらの取組についてはその効果を検証、情報発信し、我が国として知見を蓄積していく。この事業推進のため、広報等プロモーション戦略、ピッチイベント運営、フォローアップ等を管理する事務局を設置する。								
活動目標及び活動実績 (アウトプット)	活動目標	活動指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度活動見込	5年度活動見込
	大学の授業をデジタルイノベーションする質の高いアイデアの収集	ピッチイベントの登壇者数	活動実績	人数	-	10	20		
			当初見込み	人数	-	10	10	20	
単位当たりコスト	算出根拠			単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度活動見込	
	執行額(百万円)/参加者数			単位当たりコスト	円	-	-	13,547	13,547
				計算式	百万円/人数	-	-	25/1,814	25/1814
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	中間目標4年度	目標最終年度
	大学や企業等が有するアイデアを公開するピッチイベントの開催	ピッチイベントの参加者数	成果実績	人数	-	533	1,814	-	-
			目標値	人数	-	-	533	1,814	-
			達成度	%	-	-	340	-	-

根拠として用いた統計・データ名(出典)		文部科学省調べ	
政策評価、新経済・財政再生計画との関係	政策	4 個性が輝く高等教育の振興	
	施策	4-1 大学などにおける教育研究の質の向上	政策評価書 URL 該当箇所
新経済・財政再生計画との関係	取組事項	分野:	文教・科学技術
		(新経済・財政再生計画改革工程表 2021) URL:	1. 少子化の進展を踏まえた予算の効率化と教育の質の向上 https://www5.cao.go.jp/keizai-shimon/kaigi/special/reform/031223_divided/report_211223_2_2.pdf
		該当箇所	教育政策における外部資源の活用やPDCAサイクルの徹底、デジタル化の推進、改革の取組や教育成果に応じた財政支援のメリハリ付けの強化等により、少子化の進展や厳しい財政状況等の中でも、学習環境の格差が生じることを防ぎ、次代を担う人材育成の取組の質を向上させる

事業所管部局による点検・改善

	項目	評価	評価に関する説明
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	「統合イノベーション戦略2020」(令和2年7月17日)中央教育審議会「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン(答申)」における提言を実現するものであり、社会のニーズを反映している。
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	本事業は、全国の大学教員等やデジタル技術者、支援者、投資家など、全く異なる者をマッチングさせることで、授業の価値を最大化する機運を醸成し、取組を全国に浸透させていくことを目的としており、国が積極的に支援していくべきものと言える。
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	本事業は、「統合イノベーション戦略2020」において推進することと明記されるなど、政策の優先度が高い事業である。
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	○	
	一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	有	支出先の選定に当たっては企画競争を実施し、有識者によって形成された委員会による審査の上で支出先を決定する予定である。
	競争性のない随意契約となったものはないか。	無	
	受益者との負担関係は妥当であるか。	○	本事業は、支出先の選定は企画競争により実施し、国費の負担割合は妥当となる見込みである。
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	○	契約・額の確定の際に、委託費の費目・使途の内容について厳正に確認を行い、妥当なコスト水準かを確認する方針である。
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	○	再委託がある場合には、再委託先や再委託内容の必要性・合理性について厳正に確認するなど、資金の確認を行う方針である。
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	契約・額の確定の際に、委託費の費目・使途の内容について厳正に確認を行うことで、事業目的に即し真に必要なものに限定をする方針である。
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-	
繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-		
その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	○	委託先と密に連絡を取り、事業の円滑な進捗と、委託費の適切な執行について確認を行う方針である。	

事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	○	産学が協働してデジタル技術を高度に活用し、大学の授業の価値を最大化を図るアイデアのマッチングを目標としている。ピッチイベント参加者数等を成果実績とすることで、本活動への企業人、学生、教員の参画度合を把握することとしており、政策・施策等の目的と照らして整合的な形で具体的・定量的に設定されている。
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	○	支出先の選定に当たっては、企画競争により本事業の推進を最も効果的、効率的に実施できる者を選定する方針である。
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	○	当初の見込みのとおりイベント登壇者の選出等を行っている。
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	○	提案されたアイデアについて、有識者によって形成された委員会の御助言の元、アイデアの深化及び、企業等とのマッチングを行っている。
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)		-
	事業番号		事業名
点検・改善結果	点検結果	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度にはピッチイベントを取り行い、応募者から20件を登壇者(ピッチアクター)として選定し、アイデアの深化や企業等とのマッチングを実施している。また、令和4年度には2回程度のピッチイベントを企画しており、本取り組み以外にもメンタリング等、継続的な活動を行っている予定である。 ・経費の執行に関しては、事業年度ごとに選定企業から提出される成果報告書等において、支出先・使途等を把握し、委託金の使用状況や事業目的との整合性について確認を行い、事業の適切な実施に努める予定である。 	
	改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・企業とのマッチング後の登壇者においても、積極的なヒアリングを行うことで、事後経過ならびに事業を進める上でのプロセスの効率化を行う必要がある。 ・本事業について広く周知を行うため、積極的な情報発信を行う必要がある。 	
外部有識者の所見			
現在の事業設計ではマッチングが実現したか、またその後の大学側での導入により事業目的である授業の質の向上に繋がったか測ることは難しいと考える。ピッチイベントの後のフォローアップを事業の中に明確に位置付け、フォローアップについての文部科学省と委託先の役割分担を明確にすべきではないか。その上で、フォローアップの情報をアウトカム指標(マッチング件数(商談に至った件数)や、本格導入の件数(売上高等))として設定することが必要ではないか。フォローアップの際には、マッチングに至らなかったアイデア等も収集し、次の課題とすべきではないか。このような充実した情報が無ければ、事業効果は測定できないため、早急にフォローアップの仕組みを含む事業設計の見直しが必要である。			
行政事業レビュー推進チームの所見			
事業全体の改善	この事業は、外部有識者の指摘を踏まえ、フォローアップの情報をアウトカム指標(マッチング件数(商談に至った件数)や、本格導入の件数(売上高等))として設定する等の検証が必要である。		
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況			
改善年度内検討	ピッチイベントでは、教育改善に係るアイデアや具体的なシステムなど、様々な取組が提案されている状況で、商談に至った件数や売上高等を一律に指標設定することは困難だと考えるが、ご指摘の趣旨を十分踏まえ、次年度に向けて適切な指標を検討する。 なお、上記検討を踏まえ、今年度実施予定のスタートアップピッチの公募(令和4年11月頃～予定)に当たっては、事業成果のフォローアップを明記するとともに、次年度の企画競争の際にも、事業成果のフォローアップ業務を追記することとする。		
備考			
https://scheemd.mext.go.jp/			

